



夏の
半ズボン

川崎ゆきお

長田は夕食のおかずを買いに来たついでに衣料品を見ていた。季節は夏。もう梅雨も明け、本格的に暑くなる季節。

「脱げばいいんだ」

そう思い、夏物は殆ど買ってない。暑いときはパンツ一枚に近い格好で部屋にいる。まだ梅雨の頃は涼しい日もあるので、寝間着代わりにジャージをはいているが、それでは、暑くなるだろう。だから「脱げばいい」となるのだが、下はパンツだ。それでもいいのだが、誰かが来たとき、すぐに出られないし、自分自身も自分のパンツを見たくはない。

そこで今見ているのは、夏の半ズボンだ。ただ、外出用ではなく部屋着らしい。ジャージと違うのは、だぶっとしていることだ。デカパンのような感じだが、涼しそう。ジャージの裾をいつもまくっているが、これが面倒なのだ。それに体にフィットしすぎ、それで暑い。そのため、ジャージを切って半ズボンにしてもあまり意味はない。それに寒い季節になると、切ってしまったことが惜しまれる。

ステテコでもいいのだが、これでは外に出られない。今、店屋で見ているのも部屋着だが、出られないわけではない。生地は意外と分厚い。汗をかなり含みそうで、はいていて重くなるのではないかと、心配になるが、べらべらしたものよりも、こちらのほうがまとい付かないように思えた。さらに生地が薄いとパンツと同じになる。ステテコもそうだが、股間の膨らみを消したい。それにはあの分厚くゆったりとした生地が好ましい。誰か訪問者が来ても、あの半ズボンなら問題はない。

長さは膝まで。そして足が二本入りそうなほど広い。

「買うか」

価格は千円。高いものではない。しかし、それを買うと、月末のおかずが貧弱になる。今月はもうその種のもので使うお金がない。食費とタバコ代だけだ。

だが、一夏、この半ズボンでどれだけいい思いが出来るかだ。きっと出来るだろう。ジャージをめくってはくことを思えば、快適な夏を過ごせそうだ。たった千円で。

しかし、もし、本当にそれが気に入り、もう脱げなくなったときのことを考えると、一枚では駄目だ。洗濯や乾かしている間にはく分もいる。

ただ、失敗したときはどうなる。二枚買うのは早計だ。

「気に入ったら、もう一枚買う」

長田はそう決めたとき、もう買う決心が終わっていたのだろう。買うかどうかよりも、一枚にするか二枚にするかと考えたとき、落ちたのだ。

そして、千円を落とし、夏の半ズボンを買った。

失敗だったか、成功だったかは、長田は語らずじまいなので、分からない。ただ、二枚目は買わなかったようだ。雑巾に落ちた可能性もある。